

2月に入り、こちらメキシコシティでは暖かい日が続いています。日本ではまだまだ寒い盛りだと思われていますが、日中は半袖で外を歩くこともしばしばです。今年は例年に比べて比較的寒くなかったといわれていますが、メキシコの冬はあっという間に過ぎてしまうようで、暖房器具がない家庭も多いです。私たちの学校にも暖房器具はありません…。日も当たらないので教室はまるで冷蔵庫のようでした。(外の日が当たる場所のほうが格段に暖かい)

伝統ダンスの発表会

CEPE ではスペイン語のクラスの他に、文化や歴史を学ぶクラスも受講することができます。今回のコースでは、メキシコの伝統的なダンスが習えるクラスを受講しました。メキシコは地方によって伝統的なダンスが多数存在し、今回はヌエボ・レオン州、タバスコ州、ユカタン州の伝統ダンスを学びました。クラスは週に3回、2時間となかなかハード。サルサダンスを教えてくれた先生が伝統ダンスも熱心に教えてくれます。その地独特のステップや伝統的な衣装を実際に着て踊ることができるのでとても有意義なクラスです。ダンスを習った地域はいつか訪れて本場のダンスを見てみたいという気持ちになります。

さらに学期末には CEPE の講堂で発表会も行われます。リハーサルも念入りに行われ、発表会当日は私たちの伝統ダンスのクラスの間にはサルサダンスのクラスの発表があります。一曲踊って裏で早着替え！先生のこだわりで装飾品も踊りによって違うのでかなりバタバタしました。



ヌエボ・レオン州のダンス (Cerro de la Silla)
男女がペアになって踊る。



←ユカタン州の伝統的な衣装

女性はそれぞれ違う色のストールを手を持って踊る。
音楽はとても明るく、発表会の最後を盛り上げました。

ダンスの発表会を終えた後、3回目となる学期末試験が行われました。レベルが上がるごとにテストの難易度も上がるので毎回ものすごいプレッシャーです。なんとか合格点を取ると、約二週間弱の休暇に入りました。今回の休暇は知り合いの車に乗ってベラクルス州を訪れました。

ベラクルス観光

ベラクルス州はメキシコ湾岸に面した横長の州です。メキシコシティから車で5時間ほどの場所であり、メキシコシティと比べて湿気が多い気候になっています。普段はとても乾燥したところに住んでいるので、久々に日本のような湿気を感じました。ベラクルス州とその隣のタバスコ州だけで1000万人近い人々が住んでいて、そのなかには60万人ちかい先住民族も含まれています。各地で伝統的な衣服や、古来より伝わる舞踊や儀式を目にする機会も多いといわれています。

エルタヒン El Tajin



ピラミッドと球戯場が残る古代都市遺跡。球戯は「フエゴ・デ・ペロータ」と呼ばれていて、2チーム各7名で行われていました。手を使わずに腰につけたラケットのようなものでゴム製のボールを打って、決められたリングの中にそのボールを通すというたいへん難しそうなゲームでした。そして、驚いたことに、なんと勝ったほうが生贄として神にささげられていたそうです。そんなルールだったら誰も真面目にプレーしないのでは？ と思ってしまうのですが、当時の人々にとって生贄

になるということはたいへん名誉なことで、生贄になりたいという志願者は多く存在したそうです。

写真のピラミデ・デ・ニョスは6~7世紀ごろの建造物で、創建時の色は赤だったといわれています。各基壇には窓のようなくぼみが365個、つまりちょうど1年の日数ぶんついています。建物自体が当時のカレンダー的な役割を担っていたといわれていますが、このころから天体の動きを理解し、1年を365日と定めたトトナカ人に驚きを隠せません。

伝統儀式ボラドーレス

エルタヒン遺跡のゲート前で見学できる。

1000年以上前から雨乞いのために行われてきた儀式。5人の男性が30m以上の支柱に上り、1人は上に残ってほかの4人が片足にロープを巻き付けて逆さ宙づりでぐるぐる回りながら降りていく。

